

かえで支隊防災通信

第 30 号
発行
かえで支隊

防災活動近況報告

1. かえで支隊消火訓練実施

- 訓練日 9月8日(土)
参加者 22名
訓練内容 三角巾使用法訓練 消火器放水訓練 スタンドパイプ(SP)保管場所確認、保管庫キーNo.確認、SP放水訓練
- 結 果
- ・昨年から今年にかけて水道管交換工事が行われましたが、1か所、消火栓(2-32-15)の位置が西側に2メートル程移動したのでこれを確認した。
 - ・排水栓が新しく3箇所できたが、これはSPが使えないことが分かった。(消防士回答)
 - ・SPが使用できる消火栓は従来通り2箇所だが、その蓋が四角形から丸形に変わったため、使い勝手が変わった。蓋を開けるのに以前より力が必要と感じた。
 - ・今回は、消火訓練の外に、三角巾訓練を入れましたが、今後AEDや人工呼吸法の訓練も検討したい。

2. 小川自治会自主防災隊総合防災訓練(詳細は「自治会だより11月号」参照)

- 訓練日 10月21日(日)
訓練内容 午前中:旗出し訓練
午後:蜂谷戸公園にて総合防災訓練
- 結 果
- ・旗出し率 74%(昨年58%)
 - ・総合防災訓練参加者数 24名(昨年20名)
【全体参加者数 210名(昨年173名)】
 - ・昨年は、雨天順延による失念者が多かった為、低調であったと見られます。

3. 「都立小川高等学校避難所」(かえで支隊の避難先)開設連絡会

- 日 時 11月1日(木)
場 所 小川高校校長室
参加者 長谷川小川自治会自主防災隊長、松成かえで支隊代表支隊長、藤澤支隊長
町田市指定職員、小川高校校長・副校長、西小川親和会、小田急金森泉自治会、成瀬が丘自治会、京浜小川自治会(欠席)
- 議 事
- ・「避難施設運営モデルマニュアル」完成報告
「町田市町内会・自治会連合会」創立60周年記念事業として、町田市監修のもと、市内全避難所(72か所)共通の「モデルマニュアル」が完成しました。今後これをベースにして、各避難所毎に個別事情を反映した「個別マニュアル」を作成します。

- 12 月 4 日、小川高等学校用「個別マニュアル」作成のキックオフミーティング。以後、毎月 1 回のペースで検討会を実施。
- 今年度避難所開設訓練は年度内実施で検討。(将来、訓練参加者拡大を図る)

4. 「避難行動要支援者」情報収集に関する検討結果

前号(29号)の「かえで支隊防災通信」において早急に検討するとしていましたが、この度(10月14日)「小川自治会個人情報取扱規程」が制定されたことを契機に、小川自治会防災隊全体でどのように取り組むかを検討し直すことになりました。

その結果がどのようになるかは現時点では未知数ですが、「かえで支隊」の方針はその後改めて検討することとなります。その際、考慮すべき問題点は以下の通りと考えています。

(前提)

- ①かえで支隊地区は高台で地盤も安定しており、水害・地滑り・がけ崩れ・地盤沈下など大規模災害は心配ないと思われる。
- ②この地区の家屋の大半は現行耐震基準を満たしており、地震による家屋被災は少ないと思われる。想定される被害は火災や屋内事故(怪我など)が中心とみられる。
- ③「旗出し訓練」が定着している。

(問題点)

- ①「要支援者」1名につき、1~3名ほどの「支援者」が必要で、「要支援者情報」を共有し、避難方法・ルート等を取り決め、実際に避難訓練実施等が必要。**(物理的・心理的負担が大)**
- ②「支援者」を募集しても「要支援者」以上の人数確保が可能か疑問。不足する場合「要支援者」間に不公平が生じる。**(希薄な人間関係)**
- ③「支援者」が災害発生時に駆け付けられない場合(自身が被災者になる。勤務先等遠隔地に居る。等々)その**バックアップ体制が必要**。
- ④現時点では**社会的機運の醸成が不足**。**(添付新聞記事参照)**

以 上